



KANSAI UNIVERSITY



# CTL

Kansai University Center for Teaching and Learning

# Newsletter



関西大学 教育開発支援センター  
ニュースレター

June 2015

vol. 18



## 学習環境構築の第二ステージへ コモンズの普及，正課と連動した学習支援の展開

教育推進部 准教授 岩崎 千晶



巻頭言に登場させていただくのは3年ぶりになる。ちょうど3年前の2012年6月号に「授業外の学習を支える学習環境のデザインとは」というタイトルで執筆した。当時の巻頭言では、PISA型能力(OECD2001)に代表される新しい能力を育むための方法の1つとしてアクティブ・ラーニングを展開することが重要であると述べ、学習者が他者と協同し主体的に学ぶための学習環境として、関西大学にラーニング・コモンズを開設することの必要性について問うている。あれから3年たった現在、関西大学はどう変わったか。

関西大学は、まず2013年に凜風館に「コラボレーション・コモンズ」を、翌2014年には続けてITサテライトステーションの改修時に「ITセンターサテライトステーション2」をアクティブ・ラーニングが可能な環境にした。そして2015年4月には図書館に「ラーニング・コモンズ」を開設し、学生のアクティブ・ラーニングをサポートする環境を整備している。これらの施設では、学びの場所を提供するだけでなく、学生が主体的に学ぶことができるように学習支援も行なっている。

たとえば、コラボレーション・コモンズで

は、毎週水曜日に学生はお菓子をつまみお茶を飲みながら学ぶ「ラーニングCafé」を学習支援の一環として実施している。ラーニングCaféは、初年次教育レベルのアカデミックスキルを習得することを目標としており、速読や精読の仕方を学んだりリーディングを学ぶ回、スマホやタブレットで活用できるアプリを使いながら、情報を整理する技術を習得する回、論理的なスピーチをする回などを開催している。図書館ラーニング・コモンズではライティングエリアでTAが学生のレポート執筆やスライド作成に関する相談に応じるライティング支援をしている。年間のライティング相談件数も増加傾向にある。いずれの活動も、授業外にも学生が主体的に学ぶことができるような支援を展開している。

これらの学習支援は、正課と完全に切り離されたものであるか、というところというわけではない。ライティングでは授業の担当教員と連絡を取り合い、教員の意向に沿ったレポート作成の支援を展開するような取り組みがなされている。ラーニングCaféでも初年次教育の教員がCaféに参加することを授業で提案されるなどして、授業との連携が少しずつ行

なわれている。正課と学習支援が展開されることで学びの質を深めることも期待できる。今後はさらにこうした活動を充実させていくことが重要であると考えている。

このように、関西大学では3つのコモンズが整備され、学習支援も展開している。いわば第一ステージが完成しつつあるといえる。しかし欲張りな私は、さらに関西大学の学習環境の構築に関して提案を述べたい。それは第一に、これまでの知見を活かして、コモンズの学習環境を全キャンパスに構築することである。現行では千里山キャンパスを中心にコモンズが開設されている。今後は各キャンパスに応じた学習環境を展開する必要があると考える。第二に、正課と学習支援の連携をさらに増やし、学びの質を深めていくことである。少し大きなことを書いてしまい、お叱りを受けるかもしれないが、3年前の巻頭言でコモンズの必要性について述べた翌年、コモンズが設置された。今回も、学習環境構築の第二ステージとなる他キャンパスでのコモンズの設置や学習支援と正課のさらなる連携の実現が起ころうる期待を込めて!!

## フォーラム・セミナー報告

## 初年次生を対象とした全学共通科目「スタディスキルゼミ」 文学部「知のナビゲーター」 担当教員合同ワークショップを開催しました！

3月24日にスタディスキルゼミ、知のナビゲーターワークを担当される先生方を対象にワークショップを開催しました。このワークショップは、初めて当該授業を担当される教員、これまで継続的に授業を担当している教員を対象としています。ワークショップの目標は、「①他者と授業実践（目的、方法、評価）について共有し、自身の実践の良さを見出し、課題に関しては改善点を検討し、授業で試行的に実践できる」「②大学で提供している学習支援（ラーニングアシスタント、ライティングラボ、ラーニングcafé）に関する情報を適宜学生に提供できる。」の2点でした。

まず「①他者と授業実践（目的、方法、評価）について共有し、自身の実践の良さを見出し、課題に関しては改善点を検討し、授業で試行的に実践できる」では、インストラクショナルデザインに関する基礎的な事柄について紹介をしました。授業を設計する際には、授業の目標、評価、方法のバランスをとることが非常に重要になります。先生方にはシラバスを振り

返っていただき、「授業目標が具体的に書かれているか」「目標を達成するための教育方法となっているか（目標と方法に合致しており、ずれがないか）」「授業目標の達成を見極めることができている評価の方法となっているか（目標と評価方法が合致しており、ずれがないか）」について検討していただきました。評価に関してはルーブリック評価についても紹介させていただきました。

その後、グループごとに、目標を達成するためにうまくいっている手立てや課題について話し合う機会を持ちました。話し合いでは「プレゼンやレポートで取り上げるテーマにはどのようなものが適しているのか」「グループワークで自分の意見を言えない学生へのサポートの方法はどのようにしているのか」などの意見が出て、積極的な意見交換がなされました。事後アンケートでは話し合う時間をもっとほしかったという意見も出ており、議論が盛り上がった様子を受け取れました。

「②大学で提供している学習支援

日時：3月24日(火)13:00～15:00  
場所：第1学舎1号館 A201教室



ワークショップの様子

（ラーニングアシスタント、ライティングラボ、ラーニングcafé）に関する情報を適宜学生に提供できる。」では、関西大学が実施しているライティングラボでの文章作成支援やラーニングカフェについて紹介をし、授業の中でどう活用できそうかについてご意見をいただきました。2時間という短い時間でしたが、活発な意見交換がなされました。来年度も実施を予定していますので、関心を持たれた先生方はぜひご参加ください！

（教育推進部 岩崎千晶）

## 今期もFD Caféを開店しました

4月18日(土)、“FD Café”（新任教員研修会）を開催しました。新年度開始早々の気忙しい時期でありましたが、16名の参加を得ました。新任校での授業を数回経てからの方がリアリティに満ちた対話ができるとの考えから、2011年度より開店時期を4月の下旬辺りにセッティングしています。

また一昨年度より、CTLが推進する各種プロジェクトの内容をご理解いただき、

それを日常の教育実践に反映していただけるようにメニューに変更を加え、充実を図っています。

Café Timeはクリッカー（オーディエンスレスポンスシステム）を用いてのアイスブレイクからはじまり、その後、ICTを利用した授業実践の報告や授業支援システムの利用方法の案内、TA・LAすなわち学生の教育力を活用する制度の説明、ライティング・ラボやコラボレーション・commonsなど、CTLの新しい取組の紹介、あるいはグループワークの意義と価値を学生が実感できる手法の体験など、さまざまなインフォメーションやコンテンツ、メソッドを提供できたと思います。

このFD Caféは次のようなコンセプトに導かれて営業しています。すなわち、Faculty〔大学教員集団〕が教育改善のために必要なことをDevelop〔開発・伸長〕するために、まずは教員間の意思の疎通・共有が

求められるが、そのためには“Free Dialogue”が不可欠であり、それは私たちが生きていく上で不可欠の“Food & Drink”のようなものである、折角、口にする機会に恵まれるのなら、美味しく楽しく味わいたい、そんな場を必ず持ちたい、ということです。ここに自分たちの所属する組織がどんなすがたであってほしいのか、私たちはそこにどれだけ関与できるのか、そのような“Future Design”を描き、その内容を伝え合う機会もそっと織り込みたいと願っています。

コンテンツやメソッドに関する情報等を提供することも大切ですが、学部や専門分野を越えた教員のつながりを大切に育んでいくこと、これあってこそ豊かなFDを展開できると考えています。今後も、新しいメニューを開発していくつもりでいます。4月以外の開店も考えております。その折には、どうぞお気軽にお訪ねください。

（教育推進部 三浦真琴）

日時：4月18日(土)13:00～18:00  
場所：第2学舎2号館 C301教室



FD caféの様子



## 教育開発支援センターからのお知らせ

## 図書館にラーニング・commonsが開設されました！

関西大学は2015年4月6日に3つ目となるcommonsとして「図書館ラーニング・commons」を開設しました。「考動力」を育むことを目指している関西大学では、学生の思考を促す能動的な学習、学習者が他者と協働し、自律的に学ぶことを重視していると考えます。こうした学びは授業内だけでなくとどまるものではありません。

そこで関西大学では、授業外においても学生が学び続け、その学びを深めるための学習環境を構築することに尽力しており、これまでに正課の授業や課外活動を促す「総合学生会館メディアパーク 凜風館コラボレーションcommons “通称Limcom” (2013年4月開設)」、ICT機器を豊富にそろえた「ITセンター サテライトステーション2 (2014年3月開設)」を整備してきました。

そして、図書館において待望の「ラーニング・commons」を設置し、学習者同士が書籍を手にしながら、ホワイトボードや電子黒板を活用して議論しあえる学習環境を構築しました。これまでのcommonsと異なる点としては、やはり書籍が身近にあることです。豊かな蔵書のある図書館で議論を交わせることは学びを深め、知の再構成や精緻化するには非常に有益だと考えます。

本施設は、「ラーニング・エリア」「ワーキング・エリア」「ライティング・エリア」「ワークショップ・エリア」の4つから構成されています。「ラーニ

ング・エリア」では、討論や情報収集など、少人数によるグループ学習ができます。ここで思いっきり議論をして、思考を拡散させて意見を出し合ってください。「ワーキング・エリア」では、個室ブースでのグループ学習の場として活用できます。プレゼン練習・発表練習など思考を収束させたり、話し合った成果をアウトプットしたりする活動も周りの目を気にせず実施できます。「ライティング・エリア」では下記に詳細を記しておりますが、大学院生のTAが文章作成のサポートをします。「ワークショップ・エリア」は、ラーニング・commonsの中で最も大きなエリアを占めており、100人程度まで収容

可能です。このエリアでは、大型スクリーンとマイク設備を備えていますので、ゼミ発表、ガイダンス、ワークショップの開催などが可能です。すべてのエリアを使わずとも小グループでの利用もできます。これらの活動はあくまでも一例ですので、学生さんの柔軟なアイデアで様々な利用がなされることを期待しています！！

(教育推進部 岩崎千晶)



## ライティング・エリアの紹介

ライティング・エリアでは、ライティングラボのTA(大学院生)による文章作成支援を行っています。TAは、レポート・卒論・発表資料(レジュメやスライド)などを対象に、アカデミック・ライティングの基本技術についてのアドバイスをしています。例年、春学期は「レポートの書き方が分からない」「何から書き始めてい

いか分からない」と悩む1年生が多いですが、そういった学生にも丁寧に対応しています。新学期当初から多くの相談があり、ラボでのアドバイスを受けて「またみてほしい」と再利用する学生も増えています。文章作成に困ったときはひとりで悩まず、ぜひライティング・エリアにお越しください。何度でもご利用をお待ちしております。

(教育推進部 西浦真喜子)

## 国際学会で学会スタッフのインターンシップを行いました

台湾の台北市にあるAcademia Sinica(台湾国立総合研究所)で、ISGC2015が3月15日から20日の6日間行われました。ISGC(International Symposium on Grids and Clouds)は世界から29か国より200名以上が参加する国際学会で、ICTを活用した自然科学、教育、言語、環境問題などの分野の発表が行われました。日本からは関西大学をはじめ東京大学、九州大学などから計20名程度の参加がありました。

本年度も本学の学生が学会の運営スタッフとしてインターンシップを行いました。今年で3年目の取り組みでした。今回の参加者は岡本康晃(化学生命工学部2年)、増田優奈(文学部2年)、松田昇子(政策創造学部2年)、池澤智也(政策創造学部4年)の4名でした。

私たちは学会の2日前から現地入りし、運営スタッフ研修を行い、学会で配布される資料の

準備や会場の設営を行いました。学会の期間中は現地のスタッフとともに受付業務、会場運営業務、発表やワークショップ(WS)の支援を行いました。現地では英語でコミュニケーションを取らないといけなかったため、難しいと感じることもありましたが貴重な経験となりました。

今回は運営スタッフとしてだけでなく、教育推進部山本敏幸先生の交渉学WSにも参加し、LA業務で培ったファシリテーターとしての活動を行いました。WS参加者はイギリス、マレーシア、台湾、日本からの研究者・教育者でした。もちろん、ここでもコミュニケーションには英語を用いました。また、WSの参加者が多国籍だったため、文化の違いによる価値観の多様性の中、日頃のLA業務で感じることもないファシリテーションの難しさを感じました。

開会式では、学会での本学学生の「考動力」ある活躍が評価され、学会の主催者であるSimon C. Lin先生より感謝状を頂きました。

このインターンシップを通して、単なる英語を使ったというだけでなく自ら積極的にコミュニケーション取ることの大切さを学びました。このことは、関西大学が掲げる「考動力」に通ずると思います。このような貴重な経験ができる機会が3年という長期に渡って継続しています。これからも「考動力」をもってこの機会が継続してほしいと願っています。また、このようなグローバルな実践経験を関西大学の中だけでなく、日本中の大学生と共有していけたらと思っています。

報告者：LA・政策創造学部4年 池澤智也  
(教育推進部 山本敏幸)



池澤智也(政策創造学部4年)



松田昇子(政策創造学部2年)



岡本康晃(化学生命工学部2年)



増田優奈(文学部2年)

## Learning Assistant

## LA活動報告

## 学外のFD関連組織について

**関西地区FD連絡協議会（略称：関西FD）**は、京都大学が文部科学省特別経費事業「大学教員教育研修のための相互研修型FD拠点形成」において展開したプロジェクトと関連して、2008年に発足しました。これは京都大学が学内・地域・全国・国際の4つのレベルでのFDネットワークの形成を企図したうちの「地域連携」レベルでのFD組織にあたります。これまで京都大学高等教育研究開発推進センターのセンター長以下専任教員が中心となって代表幹事校および事務局を務め、関西大学教育開発支援センター（以下関大CTLとする）も発足当初から幹事校として関与してきました。

2012年度末で上記の特別経費事業が終了し、また、2014年度末には京大センターの「教育関係共同利用拠点」認定も終了したことに伴い、文科省の財政援助はなくなりましたが、2015年度以降も、本協議会は活動を継続することになりました。今後の運営については、ワーキンググループ（大阪大学・大阪府立大学・関西大学・立命館大学・京都大学）での審議を受けて、先の総会（2015年5月23日）において新たな枠組みが提案され、1）次期代表幹事校は大阪大学が務め（2年）、以後2年ごとに改選する、2）事務局業務・Webサイト管理業務は外注する、3）総会会場は代表幹事校が選定する、4）会費は当面現在のままで必要に応じて値上げを検討する、等の決定がされました。

発足後7年を経て新たなスタートとなります。

また、**全国私立大学FD連携フォーラム（略称：JPFF）**は、全国の中規模以上の私立大学が連携してFDを推進することにより、日本の新しい「高等教育の質保証」標準を目指すことを旗印に、立命館大学の呼びかけで2008年に発足した組織で、こちらにも関大CTLは発足当初から幹事校として参加し、さまざまなFD事業に積極的に関与してきました。2011年度より文科省の補助を離れ、2013年度からは関西・関東の地域担当幹事校を置き、そのうち1校が代表幹事校という形に組織替えをし、関大CTLは西日本担当の幹事校、法政大学が東日本担当代表幹事校を勤めて参りました。JPFFは、FDに関して同じような組織・運営上の悩みや問題点を抱える学生総数8000名以上規模の私立大学で成り立っていますので、活発な議論や実り多いワークショップ等が数多く開催され、関大CTLにとっても大いに刺激になる組織として関わっています。こちら先総会（2015年6月13日）において、次期代表幹事校・西日本担当幹事校は立命館大学、東日本担当幹事校が中央大学という新しい体制でスタートすることが決まりました。

新体制の関西FD、JPFFと協力して、今後も実りあるFD活動に取り組んで参ります。

（教育開発支援センター長 田中俊也）

## CTL今後の行事予定

教育開発支援センターでは、今年度も様々な行事を予定しています。教職員だけでなく、学生も対象としているものもあります。また、学外からのご参加もふるっしてお待ち申し上げております。詳しくは、**教育開発支援センター Web サイト** (<http://www.kansai-u.ac.jp/ctl/>) 内「お知らせ」をご覧ください。

### ◆今後の行事予定(7月～)

日 程	タイトル(場所)	主な対象	概 要
7月1日(水)・8日(水)	Learning Café(コラボレーションcommons)	学生	相手にわかりやすく伝えるコツや考え方の整理手法を学ぶ
8月1日(土)	広がるアクティブ・ラーニング ～交渉学の挑戦～ (東京センター)	教職員・学生	アクティブ・ラーニングに関わるポスターセッションや、交渉学ワークショップの実施
10月3日(土)	第14回FDフォーラム(予定) (ラーニングcommons)	教職員	学習成果をどう評価するか? —評価課題とルーブリックの開発—(仮題)

※日程や場所などは変更になる可能性もあります。最新の情報は上記Webサイトでご確認ください。

**From CTL事務局**

この4月に現在の職務につき、CTL業務に関わることになりました。

先日、用事があり職場の書庫に足を踏み入れたところ、かつて担当した「関西大学一般教育等研究センター報」が配架されており、思わず手に取りページを繰ることがあります。一般教育等の改善に必要な調査・研究を行うことを目的としたこのセンターは、教育内容等の改善に向けた大学の組織的な取り組みの起点となった大学設置基準の大綱化(平成3年)、FDの努力義務化(平成11年)などの高等教育施策の流れのなか、平成12年に設置された全学共通教育推進機構に発展的に統合され、その中のFD部門・授業評価部門に関係業務が引き継がれることになりました。そして、平成13年には本学で初めて「学生による授業評価」アンケートの実施が実現しました。

さらには、FDフォーラム・新任教員オリエンテーション・公開授業週間の開催、「TAを活用した授業」の募集、公開授業ビデオの制作、広報誌の発行などの旺盛な活動があり、本学におけるFD活動の基礎が築かれました。

その後、私はこの業務の事務担当を離れましたが、平成20年に教育推進部が立ち上がり、同時にCTLが開設されます。また、同じ平成20年にFDが義務化されました。

CTLの7年にわたるご活動の成果と現在進行中の取り組みについて、この短期日で到底掴みきれぬものではありませんが、より多彩かつ高度化した各プロジェクトの現場を、これからは出来る限り目撃していきたいと念じています。

そのなかで、過日、学生相談・支援センターの協力による、ライティングラボTAの方たちを対象とした研修に同席させていただきました。日ごろ、学生を直

接指導するTAの方たちが熱心に受講される姿とその後の活発な質疑応答に感嘆するとともに、大学のもとにある専門的機関が有機的な連携を行い、効果をあげている一例ではないかと思ひ、紹介させていただきます。

ところで、現在の私の執務場所は第2学舎の授業支援ステーション内にあります。ここはかつて第2部学部事務室があったところです。室内を見まわすと、当時のなごりがいまま見受けられます。本学の第2部(夜間部)は平成6年に天六から千里山に移転し、昼夜開講制によるフレックスコース(夜間主コース)を経て、平成18年をもって募集停止となりました。天六キャンパスは昨年閉鎖されましたが、現在、年史編纂室にて企画展「さよなら天六学舎—85年の歴史展—」が開催中です。天六キャンパスを懐かしく思われる方のみならず、ご存知ない方にもぜひご覧いただきたいと思ひます。(澄)



**KANSAI UNIVERSITY**

関西大学 教育開発支援センター Kansai University Center for Teaching and Learning

〒564-8680 大阪府吹田市山手町3-3-35 TEL: 06-6368-1513 FAX: 06-6368-1514

<http://www.kansai-u.ac.jp/ctl/index.html>

発行日/2015年6月26日 編集・発行/関西大学 教育開発支援センター